

体系表									
基本目標	基本計画	実施項目	年次計画（年度）						
			2019	2020	2021	2022	2023		
I 地域福祉活動の充実と専門職とのネットワークづくり 小地域ごとに福祉ニーズをつかみ、つかんだニーズに対し住民や専門職との連携により解決をはかる仕組みづくり	1 地域の福祉活動者と専門職のネットワークを拡充しよう	①地域福祉活動者と専門職等の顔の見える関係をつくる	地域ごとに、福祉活動者と専門職等が顔を合わせ、お互いの活動内容を知る機会をつくります。	2021年度までの3年間で17学区で実施	→		学区の状況に応じて継続支援	→	
	2 福祉課題の協議の場を充実させよう	②地域福祉課題について話し合う機会（協議の場）の充実	複雑化する地域福祉課題の課題解決に向けて、地域の福祉活動者と専門職等と一緒に協議する機会をつくとともに、課題解決に向けた取り組みを支援します。	現在策定を進めている学区計画の活動支援	→		モデル学区の選定	モデル学区における課題解決に向けた協議の実施	
		③小地域ごとのニーズやつながり・潜在的ボランティアの可視化	ささえあいマップづくりを通じて、その地域にあるニーズや人間関係等を可視化するとともに、ボランティア活動につながる可能性の高い方の発掘および活動支援を行う。	啓発・作成希望エリアへの学習会	→				
	3 人と人のつながりの中で、その地域の福祉ニーズや個々の困りごとをキャッチしよう	④身近な地域に困りごとを「つぶやける場」を増やす	地域の中でつながりをつくり、気軽に困りごとをつぶやける環境を整えるために、情報交換会等を通じ意識を深め、必要な支援を行います。	つながりの場の調査	調査結果の集約・まとめ・発信	情報交換会等の実施	つぶやける場の活動支援	→	
		⑤地域共生社会を目指した意識啓発	地域福祉活動者を中心に、地域でのつながりについて意識を高められるような企画を実施します。	企画の検討	→	企画の実施	希望するエリアに対して学習会等の実施	企画の効果について振り返り	
II 福祉環境づくり ボランティア活動に気軽に参加できる環境を整えるとともに、地域で暮らす多様な人々がお互いに認めあえる（共に生きようとする気持ちを育む）環境をつくる。	4 気軽に行きたくてボランティア活動を始められる環境をつくらう	⑥ボランティア活動の情報収集と発信	ボランティア活動に関わる情報を積極的に収集し、ボランティア募集・講座チラシ、情報紙を社会福祉協議会の窓口に見やすく設置するなど、興味のある方が気軽にタイムリーな情報を得られるような情報収集・発信の仕組みを検討して実施します。	情報収集・整理・発信	→			→	
		⑦ボランティア活動を始めるきっかけづくり	ボランティア活動につなげられそうな趣味サークルや講座等で人が集まっている場所や機会をリサーチし、そのような場へ出向いてボランティア活動紹介パネルの展示やボランティア活動の情報提供、社会福祉協議会へのボランティア登録を案内します。	出張ボランティア展の開催	→				→
	5 共に生きようとする気持ちを育む環境をつくらう	⑧多様な人々を理解し思いやる意識づくり	共に学びあい認めあい、共に育つ＝共育（ともい）の心の広がりを目指し、多様な人々が出会い、楽しみながら交流できる機会を企画実施します。	交流できる機会づくりの企画検討	交流できる機会づくりの実施	→			
		⑨誰もが行きたくなくなる店舗の増加につながる支援	誰もが行きたくなくなる店舗の増加につながることを目指し、高齢者、障がい者、子ども連れの方などが、外出先でどのようなことに困り、どのような配慮があれば安心して過ごすことができるのかをリサーチして啓発します。	リサーチ方法等の検討	リサーチの実施	リサーチ結果のまとめ・情報提供	リサーチ結果の情報提供	情報提供結果の把握	

基本計画1 地域福祉活動の充実と専門職とのネットワークを充実させよう



地域福祉活動者と専門職等の顔の見える関係をつくる

目的・内容	主に同一小学校区内の福祉活動者（※1）と専門職（※2）等が、日ごろから気軽に相談ができる関係づくりの第一歩として、お互いの顔を知って、活動内容を共有できる場をつくる。
手法	<p>① 天白区役所・天白保健センター・いきいき支援センター等と協働し、小学校区ごとに地域の福祉活動者と専門職等との顔合わせの機会をつくる。</p> <p>② 地域の福祉活動者は、地域福祉推進協議会を中心に呼びかけを行う。</p> <p>③ 専門職は、天白ネット協議会（天白区通所ネット、天白区訪問介護事業者ネットワーク、てんぱく訪問看護ネット、てんぱく高齢者住まいるネット、天白区居宅介護支援事業者連絡会で構成）等に呼びかけを行う。</p> <p>※当日の内容・テーマ等については、天白区役所・天白保健センター・いきいき支援センター等の関係機関と調整の上、決定する。</p>
目標	区内17学区すべての地域で、地域の福祉活動者と専門職等の顔合わせができています。
評価指標	顔合わせの機会での地域福祉活動者および専門職等の参加人数がどれだけあったか、顔合わせの機会をきっかけに、その後の継続的な活動があったかと、数値目標が達成できたか。

※1）福祉活動者とは…地域福祉推進協議会をはじめとする地域の福祉活動に関わる地域住民

※2）福祉専門職とは…専門的知識や技術を持って援助にあたる高齢者支援、障がい者支援、子育て支援等に関わる専門職

【年次計画】

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
① 2021年までの3年間で17学区実施			① 学区の状況に応じて継続実施	

基本計画2 福祉課題の協議の場を充実させよう

実施項目 2 地域福祉課題について話し合う機会(協議の場)の充実

目的・内容	<p>少子高齢化が進み、複雑化する地域福祉課題(※3)を地域福祉活動者だけで解決していくのは、難しい状況である。このような課題を、地域の福祉活動者だけでなく、その地域で活動する居宅介護支援事業所や福祉施設などの専門職等と一緒に、課題解決に向けた方法を協議する。</p>
手法	<p>① 現在策定を進めている学区計画については、策定された計画推進プランに沿って活動支援を行っていくと同時に、必要な専門職の顔つなぎや協力要請を行う。</p> <p>② 新規学区においては、実施項目1の取り組みの中から1学区選定し、地域福祉課題の協議の場を設定する。課題について、専門職の視点からのアドバイスを参考に、一緒に解決できる方法を検討する。</p>
目標	<p>① 今年度策定予定である学区計画については、地域福祉活動者だけではなく、専門職等も交えた課題解決に向けた取り組みの実践ができています。</p> <p>② 新規学区については、地域福祉活動者と専門職等も交えた地域福祉課題の協議の場ができています。</p>
評価指標	<p>協議の場が何回開催されたか、どれだけの地域福祉活動者と専門職等の参加があったかと、協議の結果、課題解決に向けた取り組みの実施ができたか。</p>

※3) 地域福祉課題の対象…年齢や障がい・国籍等にとらわれず、地域社会とのつながりや支援が必要なすべての個人(世帯)

【年次計画】

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
① 学区計画(3か年プラン)の活動支援			① モデル学区の選定	① モデル学区における課題解決に向けた協議の実施

基本計画2 福祉課題の協議の場を充実させよう

実施項目 3

小地域ごとのニーズやつながり・潜在的ボランティアの可視化

目的・内容	ささえあいマップづくりを通じて、その地域（町内会、組、団地などの単位）にあるニーズや人間関係を可視化することで、地域福祉課題の情報を整理する。同時に、これまで活動には至っていないが、活動に結びつく可能性の高い潜在的なボランティア（※1）を可視化し、無理のない範囲で地域活動へとつなげる。
手法	<ul style="list-style-type: none"> ① ささえあいマップづくりについて啓発 ② 作成希望エリアの募集と実施 ③ 作成したマップから可視化されたニーズは、実施項目2の協議課題として活用 ④ 可視化された潜在的ボランティアについては、地域の福祉活動等を紹介しながらボランティア活動につなぐ
目標	ささえあいマップ作成エリア数 ⇒10エリア（※2）
評価指標	ささえあいマップづくりについて、関わった住民等の参加がどれだけあったか、マップづくりを通して、どれだけの新規ボランティアを発見し、活動に繋ぐことができたかと、数値目標が達成できたか。

※1) 潜在的ボランティアとは…ボランティア行動には表れていないが、何らかの活動へ参加・参画する可能性が高い層をさす。

参考 齊藤ゆか（2017）

『潜在的ボランティア』を活動へ導くための条件設定と環境づくり」
（日本NPO学会 第19回年次大会）

※2) エリアとは…学区の町内会、組、団地などの単位を指す。

【年次計画】

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
① 啓発	① 啓発	① 啓発	① 啓発	① 啓発
② 作成希望エリアへの学習会	② 作成希望エリアへの学習会	② 作成希望エリアへの学習会	② 作成希望エリアへの学習会	② 作成希望エリアへの学習会
	③ 作成・実施	③ 作成・実施	③ 作成・実施	③ 作成・実施

基本計画3 人と人とのつながりの中で、その地域の福祉ニーズや個々の困りごとをキャッチしよう

実施項目 4 身近な地域に困りごとを「つぶやける場」を増やす

目的・内容	相談先を知らない方や相談機関が遠いため相談がしにくい方などが、地域の中で横のつながりをつくり、ちょっとした困りごとを気軽につぶやくことができる環境を整えるために、まずはつながりの場を調査し、情報を発信することで、身近なつながりの場等を知ってもらう。同時に、つながりの場づくりを支援し、よりつぶやける場となるように、情報交換等を通じて意識を高め、地域の中につぶやける場を増やしていく。
手法	<ul style="list-style-type: none"> ① つながりの場の調査を実施 ② 調査結果の集約・まとめ・発信 ③ 情報交換会等の実施 ④ つぶやける場の活動支援
目標	つぶやける場の数 ⇒17か所（各学区1か所）
評価指標	つながりの場の調査の実施、調査結果のまとめおよび結果の情報発信ができたか、つぶやける場の情報交換会等が実施できたか、情報交換会等の参加人数はどれだけあったか、つぶやける場の支援にどれだけ関わったかと、数値目標が達成できたか。

【年次計画】

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
① つながりの場の調査	① 調査結果の集約・まとめ・発信	① 情報交換会等の実施	① 活動支援	① 活動支援

基本計画3 人と人とのつながりの中で、その地域の福祉ニーズや個々の困りごとをキャッチしよう

実施項目 5

地域共生社会を目指した意識啓発

目的・内容	<p>困りごとがあっても、様々な理由（身体の虚弱や病気、知り合いがいない、障がいがある、低所得、外国籍、近隣と関わりを持ちたくないなど）で、隣近所とのつながりが薄れ、身近な場で相談がしにくい傾向がある。</p> <p>そのため、まずは地域の福祉活動者を中心に、地域の中でできるつながりについて意識を高められるような企画を実施する。</p>
手法	<p>① 企画内容の検討</p> <p>② 地域福祉活動者を中心に、「つながり」について意識啓発を目的とした企画を検討・実施する。</p> <p>③ 希望するエリアに対して、学習会等を実施する。</p>
目標	<p>意識啓発の企画 区域⇒1回</p>
評価指標	<p>数値目標が達成できたか、どれだけの参加者があったかと、その後、小地域での学習会等の実施ができたか。</p>

【年次計画】

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	① 企画の検討	① 企画の実施	① 学習会等の実施	④ 企画の効果について振り返り

基本計画4 気軽にできることからボランティア活動を始められる環境をつくろう

実施項目 6

ボランティア活動の情報収集と発信

<p>目的・内容</p>	<p>ボランティア活動を希望される方が活動につながることを目指し、ボランティア活動に関わる情報を積極的に収集し、ボランティア募集・講座チラシ、情報紙を社会福祉協議会の窓口に見やすく設置するなど、興味のある方が気軽にタイムリーな情報を得られるような情報収集・発信の仕組みを検討して実施する。</p>
<p>手法</p>	<p>① 社会福祉協議会に寄せられる各種ボランティア活動にかかわるチラシや情報紙を整理する。</p> <p>② ボランティア活動希望者が活動先の情報として知りたい項目を検討し、それをもとに、団体や施設等が募集しているボランティア活動の内容を集約・公表できる共通様式を作成する。</p> <p>③ ①は、他のチラシ類とはわけてコーナー表示をするなど、社会福祉協議会の窓口や廊下の掲示板を活用して、見やすく設置することにより、活動希望者が情報を手に取りやすい環境を整える。</p> <p>②は、ボランティアを募集しているという情報を得られたところから、様式を活用して情報収集を行い、社会福祉協議会の窓口や廊下の掲示板による発信の他、実施項目7で出向く場所で活用する。</p> <p>社会福祉協議会まで来られない方などに広く呼びかける啓発方法としては、社会福祉協議会が発行・全戸配布している情報紙「ばわわ」への情報掲載を検討する。</p>
<p>目標</p>	<p>社会福祉協議会へのボランティア活動希望相談件数（各年度相談件数…平成30年度相談件数から年間5%ずつ増 ③15%増 ③210%増 ③315%増 ③420%増 ③525%増）</p>
<p>評価指標</p>	<p>各種ボランティア活動にかかわるチラシや情報紙の整理、募集されているボランティア活動の情報を集約・公表できる様式の作成と活用、社会福祉協議会の窓口と掲示板や「ばわわ」等による情報発信ができたか、数値目標が達成できたか。</p>

【年次計画】

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
<p>① チラシ・情報紙の収集・整理</p> <p>② 様式の検討・作成</p> <p>③ ①②を活用した情報発信</p>	<p>① チラシ・情報紙の収集・整理</p> <p>② 様式の利用</p> <p>③ ①②を活用した情報発信</p>	<p>① チラシ・情報紙の収集・整理</p> <p>② 様式の利用</p> <p>③ ①②を活用した情報発信</p>	<p>① チラシ・情報紙の収集・整理</p> <p>② 様式の利用</p> <p>③ ①②を活用した情報発信</p>	<p>① チラシ・情報紙の収集・整理</p> <p>② 様式の利用</p> <p>③ ①②を活用した情報発信</p>

基本計画4 気軽にできることからボランティア活動を始められる環境をつくろう

実施項目 7

ボランティア活動を始めるきっかけづくり

目的・内容	より多くの方々のボランティア活動への参加拡大を目指し、ボランティア活動につなげられそうな趣味サークルや講座等で人が集まっている場所や機会をリサーチし、そのような場へ出向いてボランティア活動紹介パネルの展示やボランティア活動の情報提供、社会福祉協議会へのボランティア登録を案内する。
手法	<p>① 第3次地域福祉活動計画を推進してきた「育み部会」で作成したボランティア活動紹介パネルや啓発チラシとともに、実施項目6で収集した情報を活用する。</p> <p>② 第3次地域福祉活動計画を推進してきた「育み部会」で取り組んだ「出張ボランティア展」（※参考として、下に説明あり）を引き続き行う。</p> <p>③ 新たな場での「出張ボランティア展」の開催を開拓する。どのようなタイミングでどのような場でどのようなかたちで実施できるかは、相手先との十分な調整を図りながら検討し、実施内容も集まる場や人にあった内容のもので準備をする。</p>
目標	「出張ボランティア展」等からボランティア登録やその後の活動へつなげられた件数（つなげた件数…参加・来場者数の3%）
評価指標	「出張ボランティア展」の実施、ボランティア活動の情報提供やボランティア登録案内のできる場の発掘と活用ができたかと、数値目標が達成できたか。

※参考 「みんなの元気フェスタ」での出張ボランティア展

(2018.11.17 区役所講堂での実施の様子)



「みんなの元気フェスタ」…住民が住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らすために、介護・福祉・医療などの役立つ情報を提供するとともに、多職種連携や世代間交流の推進を図るために、天白区で実施されるイベント。天白区地域包括ケア推進会議が主催となり、介護・福祉・医療に関わる様々な職種が実行委員として参加し、企画運営を行っている。

【年次計画】

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
① 「出張ボランティア展」の実施（1回）	<p>① 「出張ボランティア展」の実施（2回）</p> <p>② ①以外の場の発掘と活用</p>	<p>① 「出張ボランティア展」の実施（2回）</p> <p>② ①以外の場の発掘と活用</p>	<p>① 「出張ボランティア展」の実施（2回）</p> <p>② ①以外の場の発掘と活用</p>	① 「出張ボランティア展」の実施（1回）

基本計画5 共に生きようとする気持ちを育む環境をつくろう

実施項目 8

多様な人々を理解し思いやる意識づくり

目的・内容	地域のつながりが希薄化する中、ひとりひとりが自分と立場の異なる人のことを理解したり、相手のことを思いやる行動について考えたりできる「気づき」を通して、共に学びあい認めあい、共に育つ＝共育（ともいく）の心の広がりを目指し、多様な人々が出会い、楽しみながら交流できる機会を企画して実施する。
手法	<ul style="list-style-type: none"> ① 子どもから高齢者、障がいの有無等に関わらず、誰もが参加し互いに交流できる企画を考える。 ② まずは在宅サービスセンター研修室で実施できる規模を想定するものとし、1回で完結できるプログラムの組み立てを考える。 ③ 企画内容としてはボッチャ（※参考として、下に説明あり）や体操などを候補とする。ボッチャであれば、ルール説明や審判のできるボランティア活動者が施設等へ出向き、高齢者や障がい者等との交流を図る機会づくりに協力できるようにするなど、取り組み（活動者や場）の広がりも視野に入れる。
目標	交流できる機会への参加者数（参加者数…1回あたり30人）
評価指標	多様な人々が出会い楽しみながら交流できる機会づくり、活動者や場の広がりができたかと、数値目標が達成できたか。

※参考

「ボッチャ」…ヨーロッパで考案された対戦型スポーツで、東京2020パラリンピック競技大会の種目にもなっている。最初にジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールを投げ、そこに色分けされたボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかにジャックボールへ近づけることができたかを競う。高齢になっても障がいがあっても、みんなが一緒に参加し、楽しめるユニバーサルスポーツのひとつである。

【年次計画】

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
① 交流できる機会づくりの企画検討	① 交流できる機会づくりの実施（1回）	① 交流できる機会づくりの実施（1回）	① 交流できる機会づくりの実施（1回）	

基本計画5 共に生きようとする気持ちを育む環境をつくろう

実施項目 9

誰もが行きたくなる店舗等の増加につながる支援

目的・内容	誰もが行きたくなる店舗等の増加につながることを目指し、高齢者、障がい者、子ども連れの方などが、外出先でどのようなことに困り、どのような配慮があれば安心して過ごすことができるのかをリサーチして啓発する。
手法	<ul style="list-style-type: none"> ① 高齢者、障がい者、子ども連れの方などに、外出先の店舗等で困った事例と、どのような配慮（人の対応による配慮、設備・環境による配慮）があれば利用しやすいか、リサーチを行う。 ② リサーチ結果を分かりやすくまとめる。 ③ 店舗等に対してリサーチ結果を情報提供し、利用者と店舗等の双方のメリットにつなげる。
目標	店舗等への情報提供件数（30件）
評価指標	店舗等で困った事例や配慮が必要なことのリサーチの実施、リサーチ結果のまとめ、店舗等に対するリサーチ結果の情報提供ができたかと、数値目標が達成できたか。

【年次計画】

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
① リサーチ方法等の検討	① リサーチの実施	<ul style="list-style-type: none"> ① リサーチ結果のまとめ ② リサーチ結果の情報提供 	① リサーチ結果の情報提供	① 情報提供結果の把握